



一ノ関藩の偉人『建部清庵』屋敷跡 ～田村地区の市道付替工事で看板と紙芝居を掲示～

(たけべせいあん)

『建部清庵』の紙芝居に興味のある方はご覧下さい。



「一ノ関に過ぎたるものが二つあり、時の太鼓に建部清庵」
 たけべせいあん かわこうじ

建部清庵(1712～1782)屋敷跡地 ～川街～

- ・蘭学医学者
- ・蘭学の元勲とも言われた大人物
- ・藩民を飢饉から救済した「民間備荒録」「備荒草木図」の著者
- ・杉田玄白との書簡が西洋医学入門書「和蘭医事問答」に
- ・弟子の一人が蘭学者「大槻玄沢」

「一ノ関に過ぎたるものは二つあり、時の太鼓に建部清庵」と伝えられる、一ノ関藩医で和蘭医学者「建部清庵」は、飢饉にあえぐ藩民を救おうと「民間備荒録」などを著しました。
 また、江戸の蘭学者「杉田玄白(ターヘル・アナトミアの翻訳版:解体新書の著者)」との親密な交流は、「和蘭医事問答」として蘭学者の必読書となり、門人の「大槻玄沢」が玄白の弟子となり、五男由甫が玄白の後を継ぎました。

これらの功績が藩に認められ、御目付格として内家中である田村町(旧:川街)に屋敷を構えたとされています。この歴史ある場所は、一関市で現在整備中の中街「歴史の小径」からの散策コースとして期待されることから、仮設の立て看板と紙芝居を掲示しました。

一関遊水地現地視察



あいぽーと(展望室)

周囲堤の役割について説明



あいぽーと(災害対策室)

内水対策について説明



一関遊水地の概要説明



第1遊水地

初期越流堤について説明



第1遊水地

大林水門について説明

平成28年11月16日(水)に、宮城県の大和町落合地区振興協議会の方々18名が、一関遊水地を視察に訪れました。

落合地区では、平成27年9月11日に関東・東北豪雨により鳴瀬川水系吉田川で計画水位を超える洪水が発生。堤防から越水し屋敷などに浸水被害がおよんだため、越水を防止するため治水対策が進められています。

当日は、一関遊水地事業の概要や河川施設の役割など説明があり、熱心に聞いていました。

◆◆編集後記◆◆今週は、全国的に寒さが厳しい日となりましたが、皆さんは体調を崩していませんか？これから積雪により、交通機関の乱れや路面凍結が起きます。道路情報など見て早めの行動に心がけて下さい。(Y)